

令和7年度第1回 静岡市民生委員推薦会 会議録

1 開催日程

令和7年6月16日（月）～7月15日（火）

2 開催方法

書面開催

3 出席者（五十音順）

市川茂委員、江原勝幸委員、太田嶋信之委員、木下俊也委員、久保田良子委員、
黒澤幸夫委員、小林靖明委員、島田明彦委員、鈴木榮委員、隅倉正員委員、寺田千尋委員、
藤原融作委員、本野雄一郎委員、山梨渉委員

4 事務局

保健福祉長寿局 健康福祉部 福祉総務課 地域福祉係

5 議 事

審議事項

（1）民生委員欠員地区の公開について

（2）民生委員候補者の推薦について

（非公表（静岡市情報公開条例第7条第1項第1号に該当））

6 会議内容

会議資料送付 令和7年6月16日（月）

審議結果受付 令和7年6月16日（月）～27日（金）

審議結果共有資料送付 令和7年7月15日（火）

7 審議内容（審議結果）

（1）民生委員欠員地区の公開について

ア 欠員地区公開の是非について

公開すべきである : 回答数11（78.6%）

公開すべきでない : 回答数3（21.4%）

【委員コメント】

市川茂委員 : 住民に知らせる。

江原勝幸委員 : 高齢化担い手不足の中、公表により立候補者が現れることが期待できる。

太田嶋信之委員 : 地域住民に現状を伝える必要があるため。

- 木下俊也委員 : 民生委員の欠員状況を市民が知ることで自分たちの地域への関心が高まる。
民生委員の役割や重要性を広く知ってもらう良い機会になる。
福祉に関心のある市民の協力が得やすくなる。
公表することで立候補者が現れる可能性がある。
立候補者は意欲や見識がある可能性が高い。
- 久保田良子委員 : 実態を伝えることは大切である。
- 黒澤幸夫委員 : 民生委員制度の必要性を先に訴え、委員のいない地区の住民が一番困る、これを理解してもらうことが大事だと思います。制度説明を民生委員のみに任せるのではなく、行政も常に宣伝する。その後に公開する順では？
- 小林靖明委員 : 地区により事情が違うので、そのことを責めるのは良くない。ボランティア的要素のある活動は人材難であり、なり手不足である。欠員があってもその中でお互いに協力して活動すべきである。
- 島田明彦委員 : 地域限定で公開を行うことで、地域住民が自分たちの地域の実情を理解することができ、福祉に関心のある住民の協力を得やすくなるのではないかと考えます。
- 鈴木榮委員 : これから欠員では困ると思う。
- 隅倉正員委員 : 公開されたくない意見に対しては、不都合な事由を十分に聞いて、その自由を除去することに努めていただきたいと思います。
- 寺田千尋委員 : 全体の問題として考えるべきだから。公表されないとわからなくなる恐れがある。
- 藤原融作委員 : 地域の課題が明らかになり、解決に向けて動き出す可能性があると思うため。
- 本野雄一郎委員 : 「公開すべきではない」としたが、これは欠員地区の公開だけでは、民生委員の欠員解消に影響を与えないからです。
また、欠員する自治会のつるし上げととらえる自治会関係者も出てくるのではないかという懸念です。

静岡市における選出は「自治会や町内会」であり、地縁組織におけるコミュニティも年々弱体化してきているのも事実です。その中で、「適任者がいない、人格者を見つけるのが大変」あたりが理由だとお聞きしました。

そのため、対策の視点としては、「選出方法」や「選出条件(居住地)」をどうするかを併せて検討する必要があると考えます。

ひとつの例としては、「自治会や町内会からの推薦」から「公募制度(欠損地区から)を導入」に切り替えるなどがあると思います。どちらにしても、公表に向けて動くのであれば、これまで尽力してくれた自治会など関係団体等への十分な理解が必要と考えられるため、現時点では「公開すべきではない」とさせていただきました。

山梨渉委員 : 公開により、欠員補充につながると考えにくい。委員の負担軽減や行政サポート充実などの検討が必要ではないか。

イ 公開する場合の取るべき手法について

① 対象の範囲

ウェブサイト等で広く公開する : 回答数 5 (38.5%)

回覧板等で地域を限定する : 回答数 8 (61.5%)

② 公開する情報の細かさ

不在地域がわかるよう詳細に示す : 回答数 9 (75.0%)

民児協単位で大まかに示す : 回答数 3 (25.0%)

市川茂委員 : 民生委員の必要性を訴える。

江原勝幸委員 : ①ウェブサイトの公開で幅広い層に届くとは限らない。②具体的に応募につながりやすい。

太田嶋信之委員 : 地域住民だけでなく広く市民に民生委員の現状を理解してもらうため。

木下俊也委員 : ①地域市民全員がウェブサイトを見るわけではない。
公表内容に配慮し、必要事項のみ公開する。
②地元の民生委員不在地域のみへの紹介でよい。
地域全体に公表した場合、悪用する人が現れるリスクがある。

久保田良子委員 : ①ウェブサイトを見ない方もいるので、回覧板がよい。②大まかでもよいと思う。詳細を示しても、どうしていくかが明記されなければ効果的ではないと考えたため。

- 黒澤幸夫委員 : 地域に明るい人も候補者なので地域限定で良い。
- 小林靖明委員 : 公開すべきではない。
- 島田明彦委員 : 地域住民に自分たちの地域の実情を理解してもらうことを目的とし、地元地区に限定して公表した方が良いと考えます。ウェブサイトで全体に知らせる必要はないのではないかと考えます。
- 鈴木榮委員 : 出来るだけ欠員を出さない様にする。
- 隅倉正員委員 : ①回覧板などでも広く公開する。福祉サービスを受ける事となる対象者には WEB に対応できない方がいる。
②民児協単位の様な大まかでも良い。地区社協レベルで欠員に対する問題点を話し合うことになり地区の前向きな意見の掘り起こしにつながる。
- 寺田千尋委員 : 市民全体で共有できる方が良いと思う。
- 藤原融作委員 : 民生委員の認知度向上につながり、不在地域が明確になった方が自分事として考えるのではないかと思うため。
- 本野雄一郎委員 : 上記でも書かせていただきましたが、公開には、「選出方法」や「選出条件(居住地)」を併せて検討したうえでですが、欠員の解消のためには、広い周知が必要と考えるため「ウェブサイト等で広く公開する」としました。
また、自治会の「回覧」を何回やるかはわかりませんが、年 1 回くらいでは期待できるほどの効果はないと思います。
- 山梨渉委員 : 悪用を防ぐため。